

平成 30 年度

専攻科修了時アンケート調査結果報告書

平成 30 年度専攻科修了時アンケート分析

1. 創造工学専攻全体

- ・「専攻科を第一希望としたか」の項、電気電子工学コース（品川）の「一般科目を通じて幅広い教養・・・」以外は 2.5 を超える評価であり、平均的に肯定的な結果であった。
- ・平成 29 年度に比べ、全体の平均が円に近づいており、コース、キャンパス間の差が小さくなっている。
- ・これらは、キャンパスの特徴を生かしつつ、両キャンパス一体運営の基、グローバル化の支援、カリキュラム改訂、研究指導環境向上に繋がる特例適用該当の特別研究Ⅱ担当教員の増や保護者会等を通じての広報活動等、専攻科の特色の強化とその広報の効果と考えられ、今後も継続の必要があると思われる。

2. アンケート回答数と回答率

- ・品川機械（回答者数 8 名*/対象者 8 名）、品川電気電子（5/5）、品川情報（3/3）、荒川機械（5/6）、荒川電気電子（8/8）、創造工学専攻全体（29/30）回答率 97%。修了者数の関係で品川情報のアンケート回答数が少ない点、分析時に注意が必要。
- *注：修了者は 29 名。アンケート後、1 名事情により未修了となった。

3. 各コースの傾向

- ・今年度の専攻科第一志望について全体の平均は 3.2 と、昨年度の 2.4 に比べ、高くなった。具体的には、品川機械、品川情報、荒川電気電子の率が高く、荒川機械、品川電気電子の率が低かった。
- ・専攻科所属に対する満足度は機械系と荒川電気電子が高く、情報、品川電気電子系は普通であった。
- ・特別研究での達成感は総じて高いが、情報工学コースは若干低い傾向がみられた。
- ・卒業後の進路については、全コースが平均 3 を超えている。

4. 修了要件の周知状況

- ・専攻科の修了要件を知っていますか、の問いに対し全員、知っている、あるいは、ほぼ知っているであり、全コース 3.6 以上で高く、十分に周知がなされていることが確認できた。

5. ディプロマポリシーとの対比

下記に示す様にコースにより目標毎の高低があるが、全目標に対し全コースの平均が 2.4 以上であり、平均的な修了生の捉え方としてディプロマポリシーを満足していると考ええる。

- (1) 学習力
 - ・全コース 2.9 以上で高く、特に情報工学コースが高い傾向が見られた。
- (2) コミュニケーション力
 - ・全コース 3.0 以上で総じて高く、国際会議や学会での発表を行わせ、一部、賞を受賞する等の教育成果がみられた。
- (3) 人間性・社会性
 - ・1 コースが 2.4、他コースは 3.0 以上であるが、他の項目に比べると低い傾向が見られた。
- (4) 基礎力：数学、自然科学
 - ・全コース 3.0 以上で総じて高く、品川キャンパス電気電子工学コースが他のコースに比べ、若干低かった。
- (4) 基礎力：専門
 - ・全コース 3.2 以上で総じて高く、専門教育が効果的に行われていることが伺える結果となった。
- (5) 応用力・実践力
 - ・全コース 3.0 以上で総じて高く、実践的な教育の効果が見られ、特に荒川キャンパス機械工学コースが高い結果となった。
- (6) 創造力
 - ・全コース 3.2 以上と総じて高く、特別研究への取り組みの効果が見られた。

以上

平成30年度専攻科修了時アンケート

● 機械工学コース 品川
 ● 電気電子工学コース 品川
 ● 情報工学コース 品川
 ● 機械工学コース 荒川
 ● 電気電子工学コース 荒川
 ● 全体

進学に際して専攻科を第1希望としていましたか？

